



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第11号
(9月16日～10月4日)

平成29年9月15日発表
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

樹上選果マン



中生種は、早もぎせず、味をのせて適期収穫を！
収穫始めはトキ9月27日頃、早生ふじ9月28日頃！！
台風に備え、風害防止対策を万全に!!!

I 要約

台風18号が本県に接近する予想となっている。今後の台風情報に留意し、台風に対する臨時農業生産情報に基づき、防風網の再点検、整備など風害防止対策をしっかりと行う。

高品質りんご生産のため、肥大や形が悪い果実や黒星病等の病虫害被害果、障害果を摘み取るなど、樹上選果を徹底する。特に、黒星病の発生園地では、葉摘み等の作業の際にも被害果や被害葉の摘み取り処分を徹底する。

収穫始めは黒石で、トキが9月27日頃、早生ふじが9月28日頃と見込まれる。早もぎせず、味をのせて適期に収穫する。

葉摘みは、早くから強く実施すると品質低下を招くので、はじめは果実に密着した葉を摘む程度にとどめ、その後、果実に日陰をつくる葉を摘み取る。

除袋は、ジョナゴールドで9月25日まで、ふじで10月5日までに終える。

II りんご生産情報

1 果実肥大、作業の進み

(1) 果実肥大

9月11日現在の果実肥大は、概ね平年並みから平年を上回っている。

地域	年	つがる	ジョナゴールド	ふじ
黒石 (りんご研究所)	本年	8.8	/	8.2
	平年	8.8		8.0
	前年	8.7		7.8
	平年比	100		103
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本年	/	8.4	8.4
	平年		8.4	7.9
	前年		8.6	7.8
	平年比		100	106
板柳町高増 (西北地域県民局)	本年	/	8.7	8.4
	平年		8.8	7.9
	前年		9.2	8.2
	平年比		99	106
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本年	8.8	8.0	8.0
	平年	8.9	8.4	7.7
	前年	—	8.3	8.0
	平年比	99	95	104

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほの調査データ

(2) トキの果実熟度

9月13日現在、りんご研究所の調査では、平年値と比較して、硬度及びヨード反応指数は低い。糖度、酸度及び表面色指数は平年並である。総合的にみて、熟度はやや進んでいるとみられる。

地域	年	果重 (g)	硬度 (lbs)	糖度 (%)	ヨード反応	表面色指数	酸度 (g/100ml)
黒石 (りんご研究所)	本年	260	16.1	13.7	3.0	1.3	0.295
	平年	259	19.2	13.5	3.3	1.2	0.287
	前年	263	19.4	14.0	2.9	1.4	0.257

注) 1 平年は平成25～28年の4か年平均

2 ヨード反応：0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

3 表面色指数：りんご黄色品種青森県標準カラーチャート（青森県りんご協会発行）の指数1～6
大きい数値ほど黄色が濃い

(3) 作業の進み（9月13日現在）

つがるの収穫は、ほぼ終了した。

葉摘みは早生ふじが終了、無袋のジョナゴールドが終盤である。

ジョナゴールドの除袋がはじまっている。

2 作業の重点

(1) 樹上選果

高品質りんご生産のため、肥大や形が悪い果実や黒星病等の病虫害被害果、障害果を摘み取る。

有袋果は、除袋後、丁寧に見直しを行う。

(2) 黒星病対策

黒星病の発生園地では、病原菌の密度を下げるため、葉摘み等の作業の際に、被害果や被害葉を摘み取り、土中に埋めるなど適正に処分する。

今後、2次伸長葉に黒星病が発生した場合は、来年の主要な伝染源となるので、見つけ次第、必ず摘み取って処分する。

(3) トキ、早生ふじなどの収穫

熟度は例年よりやや進んでいるので、収穫始めは黒石で、トキが9月27日頃、早生ふじが9月28日頃と見込まれる。

収穫に当たっては、地域毎の熟度調査結果を参考に、果実の地色や食味等を確認して、早もぎせずしっかり味をのせて適期に収穫する。

収穫後は、速やかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。

ア トキ

適期収穫のため、地域毎に熟度調査や目揃え会を実施し、収穫解禁日を設定するなど早もぎ防止に努める。

熟期が揃わないので、「標準カラーチャート」や「ハンドチャート」による表面色指数の判定や食味の確認により、3回程度のすぐりもぎを行う。その場合、1回目の収穫は表面色指数の3～5の果実が全体の半量程度に達したら行い、2回目以降は表面色指数4に達した果実を速やかに収穫する。

表面色指数5以上の果実は、食味は良いが、貯蔵中に軟質化する場合があるので即売向けとする。

また、心かび果やガク割れ果は選別時に混入しないよう、十分注意する。

トキの収穫時の標準指標

食味	糖度 (%)	ヨード反応 (0～5)	硬度 (lbs)	表面色指数 (1～6)
4以上	14%以上	1.5以下	14～15ポンド	4以上

※表面色指数はりんご黄色品種青森県標準カラーチャートの指数



写真↑ハンドチャート
 ←写真 りんご黄色品種青森県標準カラーチャート
 ※お問い合わせ先：公益財団法人青森県りんご協会
 電話 0172-27-6006

イ 早生ふじ

早もぎにより、食味の劣る果実が出回り、市場評価を落としている事例が見られるので、しっかり味をのせて適期に収穫する。

収穫時期が早すぎると糖度が低く食味が劣り、遅すぎると果肉が軟化し、貯蔵力が低下するので、2回くらいに分けて収穫する。

早生ふじの収穫時の標準指標

食味	糖度	フォード反応	硬度
3.5以上	13%以上	2.0以下	14~16ポンド

(4) 中・晩生種の着色手入れ・除袋

早くから葉を強く摘みすぎると、鮮やかな色が着かないばかりでなく食味を低下させるので、はじめは果実に密着した葉を摘む程度にとどめ、その後、果実に日陰をつくる葉を摘み取る。なお、高温時の葉摘みは、日焼けを助長させるので避ける。

摘葉剤ジョンカラープロを利用する場合は、ふじのみとし、使用時期は「収穫40~50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

除袋は、ジョナゴールドで9月25日まで、ふじで10月5日までに終える。着色ムラをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉を摘み取る。なお、日焼けの発生を防ぐため、内袋をはぐ時は曇天か晴天の日中(10時~14時)に行うが、高温時は避ける。

(5) 風害防止対策

台風18号が本県に接近する予想となっている。台風等に備え、防風網やわい性台樹の結束などについて、再度点検し、補強や取り替えを行う。

今後の台風情報に留意し、防風網を張るなど風害防止対策をしっかりと行う。降雨時に収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意するなど、台風に対する臨時農業生産情報に基づき対策を講じる。

また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。わい化樹や幼木は倒伏しやすいので、再度支柱のぐらつきや主幹との結束状況を点検し、補強する。

(6) モモシンクイガ被害果の除去

モモシンクイガによる被害果を流通させないために、収穫した果実は、選果時に徹底して選別する。被害果は見つけ次第、7日以上の水漬けなど適切に処置をする。

(7) 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。なお、防鳥網の網目は35mm以下とする。

(8) 腐らん病対策

夏場には、病斑の拡大が一時停止していたが、今後、降雨により未処置病斑から胞子が飛散し、来年以降の発生につながる。胴腐らんの治療部を再度点検し、病斑の伸展が見られる場合は直ちに適切な処置を行う。

3 一般作業

- (1) 草刈り (2) 徒長枝整理、枝吊り、支柱入れ

4 今後の作業予定

- (1) 中・晩生種の着色手入れと中生種の収穫 (2) 果実疫病対策
(3) 風害防止対策 (4) 腐らん病対策 (5) 支柱の手直し
(6) 鳥害防止対策

次回の「りんご生産情報」第12号は10月4日(水)発表の予定

— 樹上選果推進期間（8月下旬～収穫期） —
美味しいりんごを届けよう！

